

木 里 海 NEWS LETTER No. 1

CoHHO (こっほ) = Connectivity of Hills, Humans and Ocean (森里海連環)

NEWS LETTER 発行によせて

2013 年 4 月, 森里海連環学教育プログラムが開講しました。今年度は, 6 つの研究科の大学院生が受講しています。この森里海連環学教育プログラムの実施状況や森里海連環学教育ユニットの活動内容を, 半年に 1 回 NEWS LETTER としてお届けする予定です。

森里海連環学教育ユニット長 山下 洋

改めて、プログラム参加学生のみなさんへ。

みなさんは、それぞれ専攻を持ちながら本プログラムにも参加するというチャレンジをなさっています。その好奇心を燃やし続け、森から里、そして海に至るつながりの探求という挑戦を楽しんでください。また、さらなる挑戦をする人に温かいエールを送る心がけを忘れないでください。

みなさんが本プログラムで京都大学らしい自由闊達なコミュニティを築き、多くの友人を得てプログラムを修了なさることを願っています。

(公財)日本財団 海洋グループ 荻上 健太郎

Event calendar 2013 April - October

4 月	4	地球環境学舎新入生ガイダンスでのプログラム紹介	
	5	農学研究科(3 専攻), 人間・環境学研究科新入生ガイダンスでのプログラム紹介	
	10	森里海連環学教育プログラムガイダンス	予想を超える多数の学生が参加!
	12	プログラム履修願提出期限(77 名が提出)	
	17	京都大学・日本財団共同事業についての記者会見 Denis Bailly 博士による記念講義 森里海連環学教育プログラム開講式・開講記念パーティ	Event report 1
	18	森里海連環学公開セミナー-1: 西村文英(プレスト大学研究員)	Event report 2
5 月	30	森里海連環学公開セミナー-2: 長谷川路子(森里海連環学教育ユニット研究員)	
6 月	5	インターンシップガイダンス	
	29	森里海シンポジウム「人と自然のきずな」参加者 129 名	Event report 3
7 月	12	インターンシップ補助金の受付	インターンシップ履修者 48 名, うち 26 名にインターンシップ補助金支給予定
	23	森里海連環学公開セミナー-3: 大嶋真謙(森里海連環学教育ユニット教務補佐員)	
	24	国際学会発表補助金の受付開始	
		順次インターンシップへ→Weekly report が内部向け掲示板で報告されています	
8 月	5	(全学対象)森里海連環学実習Ⅰ	Event report 4
	30	(全学対象)森里海連環学実習Ⅱ	
9 月	18	国際ワークショップ in ベトナム	Event report 5

Event report 1 森里海連環学教育プログラム開講 The opening of the CoHHO program

2013 年 4 月 17 日、森里海連環学教育プログラムの開講を記念して、記念講義、開講式および開講記念パーティが開催されました。

詳しくは→<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/cohho/activities/otherreport.html>

開講式に先だって、京都大学と(公財)日本財団による記者会見が開かれ、共同事業の概要やプログラム開講の経緯・内容が説明されました。つづいて、開講式が旧演習林事務室の建物で開かれました。開講式では、京都大学ー日本財団森里海連環学フェローの授与も行われ、奨学生の英語・日本語を交えたスピーチに大きな拍手が起こりました。



16:30 からは、プログラムの必修科目「流域・沿岸域統合管理学」の第 1 回授業として、Centre for the Law and Economics of the Sea of University of Brest の Denis Bailly 博士を迎えた記念講義が行われました。多くの学生が熱心に聞き入っていました。その後、再び旧演習林事務室に会場を移し、開講記念パーティが開催されました。



Event report 2 森里海連環学公開セミナー Seminars for discussing studies of the CoHHO

森里海連環学教育ユニットでは、森里海連環学に関する公開セミナー（通称 CoHHO セミナー）を開催しています。教員・学生を問わず、一般の方にも参加していただけます。不定期ですので、ユニットのホームページ（<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/cohho/>）の News を要チェック！

2013 年 4～9 月の CoHHO セミナーの報告者・タイトル

1. 西村文英(プレスト大学研究員)：The economy of marine biotechnology towards coastal sustainability: The golden triangle of blue growth
2. 長谷川路子(森里海連環学教育ユニット研究員)：森里海連環学教育プログラムの展開をマーケティング論で考える：ガイダンス参加学生に対するアンケートの結果報告
3. 大嶋真謙(森里海連環学教育ユニット教務補佐員)：海産魚類の仔魚期における生残と資源加入

Event report 3 森里海シンポジウム Mori-sato-umi symposium

2013 年 6 月 29 日（土）、森里海シンポジウム「人と自然のきずな～森里海連環学へのいざない～」を、東京・赤坂の日本財団ビルで開催しました。桑子敏雄氏(東京工業大学)の基調講演、異なった学問分野からの森里海連環学の紹介および環境づくり人づくりを实践されている方々も交えたパネルディスカッションが行われ、ロビーでは森・里・川・海の保全活動団体による活動報告(パネル展示)もありました。

詳細や配布資料などを HP よりご覧いただけます。

→<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/cohho/activities/20130629.html>



Event report 4 森里海連環学実習

(Fieldwork study of the connectivity of hills, humans and oceans)

全学共通科目である森里海連環学実習には京都府の由良川流域（連環学実習Ⅰ）と北海道の別寒辺牛川流域（連環学実習Ⅱ）の2つのコースがあります。前者は公募により集められた他大学の学部生・院生，後者は北海道大学の学生と共同で行われていて，大学を超えた交流の場となっています。これらの実習では，森林～河川～河口・沿岸域を通して調査を行い，生態系構造の変化を解析することによって森里海の連環について考察することを目的としています。

今年度の由良川実習は8月5－9日に行われました。初日に芦生研究林内を源流近くまで移動しシカ害の影響を観察。その後，源流部の水・生物試料の採取を行い，夜に芦生研究林に関する講義を受けました。二日目は起床とともにみんなで朝ご飯を作って，宿泊施設に隣接した溪流から調査を開始。一日かけて，ダム，農村地帯，下水処理場などを巡り，由良川を下りました。そして3日目の午前に河口と丹後海の神崎浜で調査を行い，流域調査はこれで完結。その後は舞鶴水産実験所において，採取した魚類・水生昆虫・動物プランクトンの同定と懸濁物・水試料の分析などを行いました。この夜は自分たちが獲った魚も用いたバーベキューでしばし息抜き。そして，データの揃った4日目の午後からいよいよプレゼンテーションの準備を開始。各班が与えられたテーマに沿って夜遅くまで活発に議論する姿がみられました。最終日の発表では，先生だけでなく他班の学生からも質問があり，それぞれが考えたことを交換している様子がみられました。5日間の実習で，森里海のつながりについて考えるとともに，人とのつながりもきっちりと築いて，たくましくなったように思います。



由良川 森里海

ベトナム・フエ市のベトナム文化芸術研究所フエ分院において、国際ワークショップ「伝統建築とコミュニティの継承」を、当分院、フエ科学大学、本学地球環境学堂・学舎、森里海連環学教育ユニットの共催で2013年9月18日に開催しました。



本ワークショップでは、伝統建築と地域コミュニティの発展的継承、森里海連環の伝統的な地域コミュニティの知恵について、関連する研究発表、情報共有、及び今後の共同研究について議論するために開催され、約50名の関係者が参加しました。

共催機関を代表して、ベトナム文化芸術研究所フエ分院前所長・Nguyễn Hữu Thông氏、フエ科学大学建築学科副学科長・Nguyen Ngoc Tung氏、本学地球環境学堂・学舎・小林広英准教授から開会の挨拶がなされ、5題の研究発表と17編の論文報告をもとに、今日的課題の抽出や将来の共同研究の可能性について積極的な議論が交わされました。

ワークショップの様子は各種メディアに取り上げられ、地元フエTVがニュース特集として報道しました。本ワークショップを契機に、森里海連環の地域コミュニティによる伝統文化継承に関する共同研究を行うことが提案され、今後の具体的な活動につながっていくことが期待できます。

Introduction of educational program of the CoHHO 1

流域沿岸域統合管理学 (Integrated watershed and coastal management)

森里海連環学教育プログラムの必修科目の一つである流域沿岸域統合管理学では、国外や学外の研究者を招いてリレー講義を行いました。森里海連環学に基づいて河川流域から沿岸域までの統合的な観点からの講義が実施され、履修生各々が自分なりの森里海連環学へのアプローチを深めていきました。

講師(所属)：講義内容

- 1 山下 洋(京都大学)：ガイダンス
- 2 Dennis Bailly (University of Brest)：Knowledge and policy integration for coastal zone management
- 3 宇多高明((一財)土木研究センター兼なぎさ総合研究室長)：流砂系の管理
- 4 清野聡子(九州大学工学部)：Integrated coastal zone management
- 5 仲岡雅裕(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所)：Ecology of macrophyte beds in coastal area: effects of terrestrial input on their functions
- 6 田中 克((公財)国際高等研究所)：海からみる森と里と海のつながり～森里海連環学序説～
Connectivity of forest, sato and sea viewed from the ocean～Introduction to H to O studies
- 7 谷内茂雄(京大大学生態学研究センター)：流域ガバナンス論
Hierarchical watershed management -creation of a watershed as a public space-
- 8 白岩孝行(北海道大学低温科学研究所)：Giant fish-breeding forest: a new environmental concept connecting continental watershed with open water
- 9 松下和夫(京都大学名誉教授)：地球環境問題と環境ガバナンス
Development of global environmental governance :From Stockholm to Rio+20
- 10 牧野光琢((独)水産総合研究センター中央水産研究所)：Ecosystem approach to the Asia Pacific fisheries
- 11 梅津千恵子(長崎大学水産・環境科学総合研究科)：温暖化と統合的土地水管理
Integrated land water management against global warming
- 12 佐藤真行(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)：経済発展と自然環境の持続性
Sustainability of economic development and the natural environment
- 13 柴田英昭(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)：Processes, functions and services in terrestrial ecosystems
- 14 小林聡史(釧路公立大学経済学部)：湿地の保全と再生
Ramsar convention on wetlands: wetland conservation and restoration

この講義は、地域の環境管理や環境活動を進めるリーダーを育成するため、森里海連環学を地域で実践する社会的総合力、マネジメント力、コミュニケーション力を持つ地域のリーダーのあり方を探ることを目的としています。

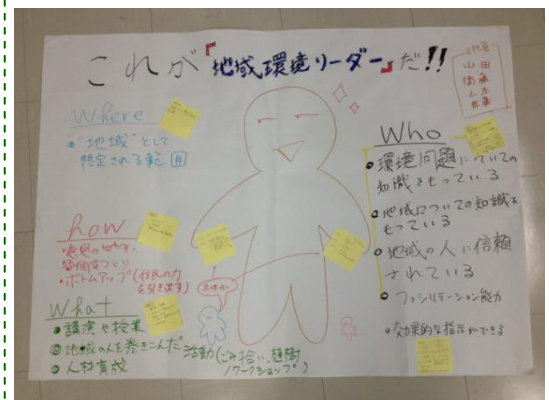
講義は教室での受動的な講義形式ではなくアクティブ・ラーニング形式で行い、国内外の様々な地域の環境管理や環境活動の実践事例を分析・議論したり、地域で活躍する行政やNPO等の実務者の話を聞いたり、実際のフィールドを訪問したり、また最終的に各学生が地域の環境活動事業を企画して発表する内容となっています。企画事業は、単なる理想論ではなく、各学生が実際に企画・運営することを想定してそれぞれ企画してもらっています。



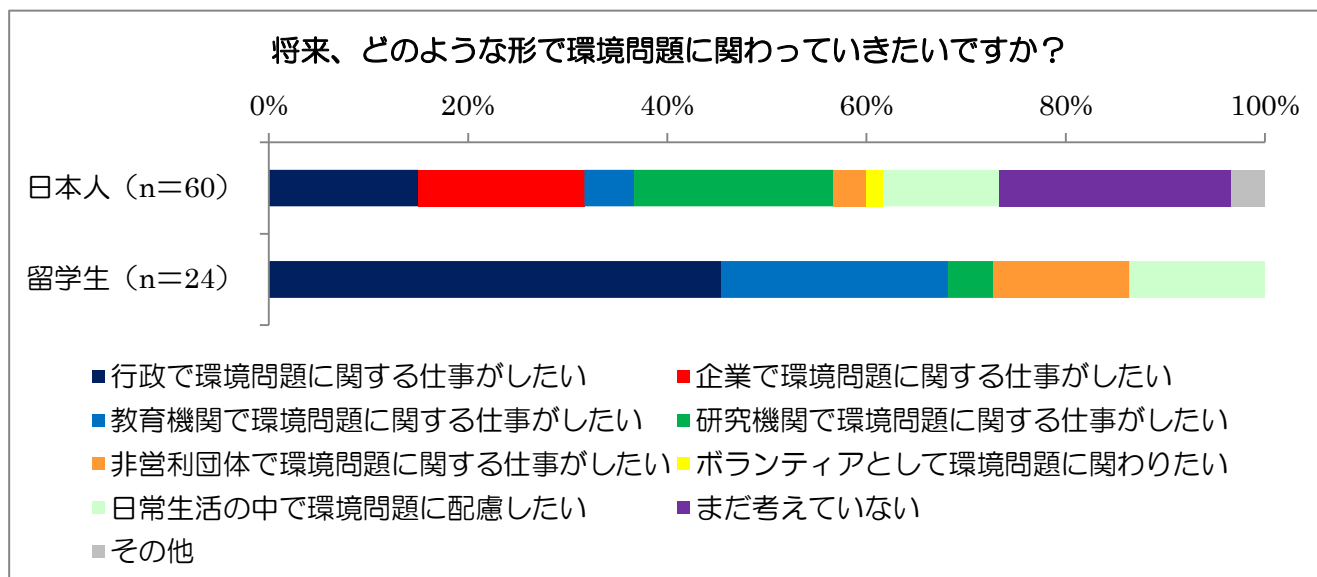
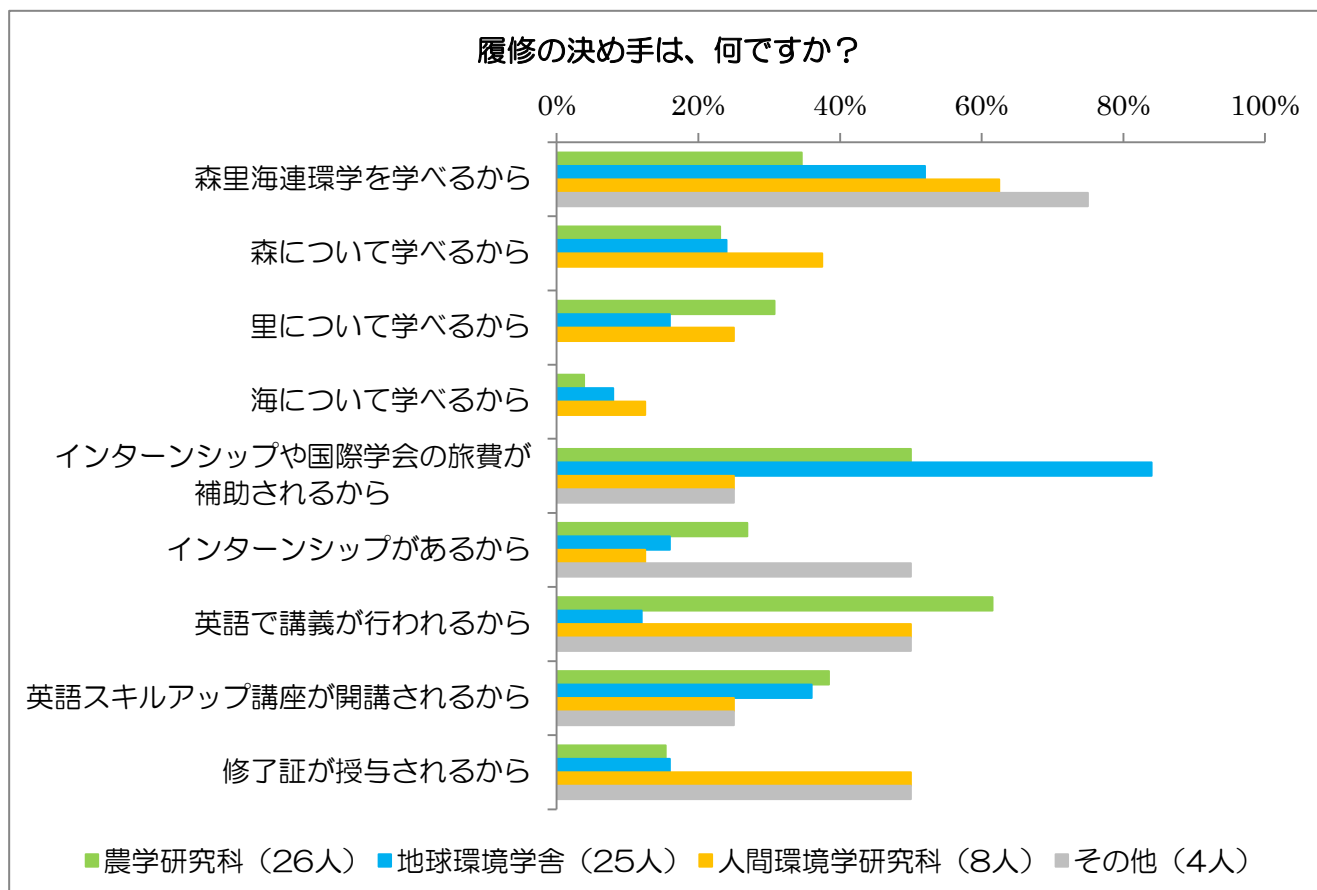
履修学生の専門は自然科学・社会科学から多岐にわたる学生が参加していたこともあり、各学生から企画された事業案は、それぞれの専門性や人的ネットワークを活用した実現可能性が高いもので、内容も幅広いものとなりました。

○企画事例

- ・環境×観光都市おたる：みんなで「たんざく」コンテスト
- ・久御山における洪水を防ぐ地域づくり
- ・京都府における競技力向上の学術的アシストプログラム
- ・竹でみんなをつなごう！
- ・つながってるかな、鴨川
- ・不要オフィス家具の継続的安定的リユーススキーム×実践的環境教育の普及
- ・家庭における電力使用量を抑える仕組みづくり：一京都市内の単身大学生を対象とした電力使用量の可視化による節電行動への影響をはかる実証実験—
- ・京都市循環生活行動計画
- ・京都の秋 学生音楽祭典～文化の都で音楽を～
- ・落ち葉堆肥がつなぐ若者と高齢者市街地と山間部
- ・CHIMAKI Project～京都の伝統を支える植物の保全～
- ・京都市における大学生の地域古紙回収システムへの参画促進計画—左京区を中心に—



Students in the CoHHO educational program 学生に聞いてみました！～プログラムの履修理由と将来の希望～



4月10日(水)に開催した「森里海連環学教育プログラム」のガイダンスで、アンケート調査を実施しました。その一部を紹介します。ガイダンスに参加して“プログラムを履修する！”と決めた学生に履修希望の理由を尋ねると、所属研究科によって大きく異なりました。また、将来どのような形で環境問題に関わっていきたいかを尋ねると、日本人と留学生の間に大きな違いが見られました。ただ、多くの学生が、仕事として環境問題に関わりたいと考えているようです。履修生全員のニーズ全てに応えることは出来ませんが、少しでも多いものとなるよう、将来にきっと役立つものとなるように、プログラムの改善・充実を図っていきます。さっそく、自由回答欄に寄せられた“実習への期待”に応えるべく、来年度に向けて準備を進めています。

Introduction of educational program of the CoHHO 3

英語スキルアップ講座 (English skills course)

講義の多くが英語で実施される森里海連環学教育プログラムでは、履修生のための英語スキルアップ講座を設けています。

2013 年度は希望者が多く、最大 2 クラス (各 10 名) の定員をくじ引きで決めました。4 月～6 月に学外の英会話専門教師により 7 回の講義が行われました。



What is the CoHHO educational program and the unit? 森里海連環学教育プログラムとユニット

森里海連環学教育プログラムとは・・・

(公財) 日本財団の助成により、京都大学と日本財団の共同事業として実施されている学際融合教育プログラムのことです。2013 年度から 5 年間開講され、京都大学の大学院生ならば誰でもこのプログラムを受講することが可能です。森里海連環学を修め、国際的に活躍する人材を育成するために、幅広い内容の講義を用意し、インターンシップおよび国際学会での発表を支援する制度や私費外国人留学生奨学金(京都大学－日本財団森里海連環学フェローシップ)も設けています。

詳しくは→<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/cohho/program/program.html>

森里海連環学教育ユニットとは・・・

上記の教育プログラムを提供するために、京都大学の農学研究科、人間・環境学研究科、地球環境学堂・学舎、フィールド科学教育研究センターが共同で設立した組織です。現在、各研究科・学堂・学舎・センターから 5 名の教員が本ユニットに所属し、プロジェクト雇用教員 4 名とポスドク研究員 2 名、教務補佐員 1 名、事務職員 3 名の合計 15 名が構成員となっています。

また、上記の教育プログラムに加え、学部学生への森里海連環学の講義・実習・ポケゼミ(少人数セミナー)も実施しています。さらに、森里海の連環の普及や実践のために、研究・教育成果を広く発信するためのシンポジウム(森里海シンポジウム)や現場型セミナー(地域連携講座)も開催しています。

森里海連環学教育ユニット支援室とは・・・

とくに教育プログラムの履修にかかわる事務や学生との連絡窓口となる部署です。プログラムの履修生にとっては、履修や補助金申請に必要な書類を提出したり、質問や相談をしたりする部署なので、場所を覚えておきましょう。農学部総合館の 1 階北東角にあるフィールド科学教育研究センター事務室内にあります。

Informations お知らせ

- 森里海連環学に関する英文教科書 “Connectivity of Hills, Humans and Oceans: Challenge to Improvement of Watershed and Coastal Environments” を作成中です。2014 年度の初めには、プログラムの講義に活用できると思います。
- フィールド科学教育研究センターと森里海連環学教育ユニットが共催する国際シンポジウムが 11 月 26 日～28 日に京都大学芝蘭会館で開催されます。
詳しくはこちら→<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/symposium/>
- 次回の森里海 NEW LETTER の発行は、2014 年 3 月頃を予定しています。

Snapshots of the CoHHO program (講義風景)

～流域沿岸域統合管理学 (Integrated watershed and coastal management) 講義より



発行 京都大学学際融合教育研究推進センター
森里海連環学教育ユニット
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
(京都大学フィールド科学教育研究センター内)
<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/cohho/>



Kyoto University
CoHHO Unit

